

# 松榮山報

令和二年  
秋季例大祭齋行  
並びに  
終戦七十五年  
花火奉納

御霊をお慰めし国の平和と  
感染症の終息を願う



今年は一コロナウイルス感染症予防対策として、護國神社では七五三詣りにもソーシャルディスタンスを用いて余裕あるお参りができるように配慮いたします。特に小さなお子さまの大切なお祭りになりますのでご参拝の皆さま方にはご理解とご協力をお願いいたします。

三歳五歳七歳のお子さまの健やかな成長を願う七五三のお参りは、お子さまにとっては初宮参りに次ぐ人生の大きなお祭りのひとつです。あらゆるものから守られるともいわれる日本の伝統と格式の高いお祭りの七五三。今年も新型コロナウイルスの流行によってますます命の大切さ、愛しい我が子の無事成長が心に強く響く年になっています。

大切なお子さまの健やかな成長、そして幸せをと、真心を込めて祈願するご家族にとって佳き日。日本を護り神様となられた護國神社の御霊たちの大きなご加護をお受けください。

新型コロナウイルスが懸念されるのはいえ、吉日である十一月十五日の当日は大変込み合うことと予想されます。お繰り合わせいただき十五日前後のご都合の良いお日にちのご参拝をお勧めいたします。



## 師走 大祓式のご案内

知らず知らずのうちに、また本人が気づかないうちに心や体についてしまった一年間のさまざまな悪しきことのお祓い。年明けから半年後の六月三十日と一年の終わりの大晦日にいにしえより続く節目を尊ぶこの行事は、私たち国民はもとより、今でも宮中において天皇陛下御自らお祭りされる日本の古式ゆかしい行事のひとつです。

特に今年新型コロナウイルスの感染拡大という世界中が震撼とさせられている試練の年になりました。いまだに終息の糸口も見つからず、ただただひたすらに家族の無事を祈る一年の終いが近づいています。家族、愛する人、仕事、大切な物事に対するおのの心持ちの再発見とも言えます。それはまるで戦争中に



■日 時/令和2年12月31日(木)  
午後3時より  
■場 所/大分県護國神社  
人形(ひとがた)に思いや願いを託したお祭りの後、本殿にて参拝します

戦地へ赴いた兵士、見送る家族の思いにも似ています。日本人は「これから気持ちを改めて心機一転で」という心構えがこの国の人々よりも強いと言われていいます。心も体もきれいにし、準備を整えて新たな物事に臨むというけじめは暮らしのなかの潔さにも通じる精神の高さと豊かさをうかがい知ることができません。

さまざまが過剰なほど起きたこの一年間。今年の師走大祓式ほど「取捨選択」、「再生」を願う気持ちが大きいのではないのでしょうか。そして大祓式から数時間後に控えている新年への期待の大きさも例年以上ではないのでしょうか。

ご自身のゆくやが無事であったことへの感謝と、来る年がどうか健康に平安に無事に過ごせますよう、神聖な師走大祓式ご参加のご案内をいたします。

## これからの祭典行事案内

※時節柄、それぞれ規模縮小の祭典行事となります

十一月  
第六十九回  
大分市菊花展  
十月三十日~十一月十一日  
新嘗祭  
二十三日  
護國神社の神饌田で十月に収穫されたばかりの新穀を神前に供え、五穀豊稔の感謝と国の平和をお祈りします。

大絵馬建立 一日  
来年の「壬子丑」が描かれた大絵馬を設置除幕して、護國神社の年越し準備が始まります。

大破魔矢、大熊手奉納 六日  
御煤払い、大注連縄掛け替え 二十五日  
神職仕女同で社殿や神門の今年年間の汚れを忌竹で払い清めます。併せて今年の新穀の葉を使って大注連縄を作り、本殿前に掛け替えます。

師走大祓式並びに除夜祭 三十一日  
臨時仕女奉仕奉告祭 三十一日

## お礼

16年間にわたり大分県護國神社の神饌田耕作長としてご尽力賜った安部正氏ご夫妻が、今年秋の抜き穂の儀及び新嘗祭をもって耕作長を退くことになりました。

自然環境が大きく様変わりしている昨今において御霊たちへのたゆまぬご奉仕、瑞穂の国日本の稲作文化を護國神社を通じて地元大分市でお支えくださりましたことを心から感謝申し上げます。

大分県護國神社



## 令和二年 希望の「一文字」募集!

十二支のスタートからふたつ目である丑年。特に今年には明るいニュースに恵まれない一年間でした。あなたは「一文字」に何を託しますか。大きな希望の思い、そして叶えたいと願う夢。あなたの思いの「一文字」を募集します。

■募集期間  
令和二年十一月一日(日)~十二月十五日(火)必着  
令和二年十二月十六日(水)書初日  
令和三年一月二日(土)正午より護國神社神楽殿前

■募集要項  
神社に備え付けの所定用紙に「来年の漢字」と、その「一文字」を選んだ理由を簡単に説明。氏名、年齢、性別、住所、電話番号を書き添えて、左記に郵送もしくはフアクシミリ、または直接神社社務所にご持参、設置されている応募箱にご投函ください。応募はおひとり「一文字」のみとさせていただきます。なお、入選の方には後日連絡いたしますので、電話番号の記入漏れがないよう必ず明記してください。

T 870・0925  
大分市大字牧一三七一番地  
大分県護國神社  
「新しい年希望の「一文字募集」係



# 秋季例大祭



## 令和二年秋季例大祭を終えて



大分縣護國神社宮司 八坂秀史

終戦七十五年の節目の年に当たりながらも、世にはびこる悪疫や台風のため、本年の例大祭は不規則な斎行と相成りました。それほどに御霊がより安らかにお鎮まりになりますよう強く祈念申し上げたところです。さらに今年は特にその御霊におすがりをし、この病の災いが速やかに払い去られるよう願われてなりません。先般、現在は他県在住の御遺族八十八歳のM氏から長いお便りをいただきました。六十一年前、昭和三十

四年七月第八回（最後となる）大分県遺児靖國神社参拝団で六百十名の引率をされた方です。（抽選漏れで参拝できなかった八百名の方はこの護國神社に詣でていただきます。皆様の中にもこのとき中学三年生だった方は靖國神社に或いはこの護國神社に参拝された方がいらっしゃるかと存じます。

M氏の父君は戦時中召集され、故郷の駅から村民挙げての激励を受け出征されました。しかし、その駅で帰りを待ち続けた母子のもとに戦後戦病死の報せが届きます。病弱の母に代わり白木の箱を抱いての帰りの列車ではずっと立ちっぱなしでした。帰郷したその駅舎には今度は誰一人として迎えはありません。子供心にも世間の冷たさ薄情さを痛感します。そして襲ってきた困窮した日々と母親の凄絶なご苦労。戦死された父君のご無念、母子の深い悲しみと口惜しさ、筆舌に尽くしがたい戦後の苦難。並大抵でないこの想いを次世代に伝え平和を護持しその尊さに感謝してほしいと、短歌を詠み文章に認めてもらっています。どうぞ皆様方もお身内のお近くの若い方幼い方にご自身の

御霊に慰霊と感謝。そして現下におけるさまざまな災禍の終息の祈りと願いを込めた秋季例大祭が執り行われました。献幣使として大分県神社庁長神日出男様をお迎えして、当社役員総代をはじめ、ご参集いただいた各界の代表、また御遺族崇敬者の方々が見守るなか、台風十四号の影響で大幅に縮小せざるを得なかった令和二年秋季例大祭が粛々と斎行されました。祭典間近になって雨が収まったことに御霊たちのご神威を感じました。新型コロナウイルス感染予防のため、規模を縮小した春季例大祭に続き、このたびは台風の影響も加わり、規模を縮小して行われた大祭。ご参列が叶わなかった多くの皆さまに対しては、時世と悪天候とはいえ大変心苦しいなかでの大祭となりました。例年ならば、今の世の中が変わることない、いつもの世の中であつたならば、御霊たちもご参列の皆さま

も一緒に喜びただける一日であるのと思いがからの祭典。また、いつもの大祭であればご参列の皆さま方の御霊にお寄せになる篤いお気持ち、ご奉仕する私たち神職にひしひしと届いて、御霊たちと此処に生きる皆さまとの中取り持ちのお役を有り難く感じることのできる大切なお祭りであるのにと改めて思いを深くした大祭でした。このような縮小を余儀なくされた秋季例大祭ゆえだったからでしょうか、春の大祭同様に「神様と私たち人間の深い絆の大切さ」を改めて気づかされた大祭でした。

ひたすら祈りを重ねる。新型コロナウイルスによって今年はその意味の大きさと大切さを感じています。そのような毎日において、「難あつて有り難し、大難を小難に転じる」という先人たちが残したその心のよりどころのような言葉の数々を思い出しては、何とか前向きに、何とか穏やかな暮らしを取り戻さねばと思ふ気持ちは、今は誰もが共通して持っている自分自身に向けるエールではないでしょうか。そしてどのような形にせよ、個々においてそれぞれの祈りをされ

体験を想いを伝えてください。それは御霊の安鎮に必ずやつながっていくことなのです。

M氏は九月下旬の命日祭に米寿のご奉告もかねてご遠路のところ参拝されました。同郷で幼馴染のY氏には予めお知らせいたしこのご神前で久方ぶりに再会していただきました。Y氏の義父も同じ昭和二十年九月にやはり大陸でそれも同じく三十七歳で戦死されたからです。ともに八十八歳のお二方、にこやかに語り合い再会を約されていました。それぞれにゆかりの二柱の御霊も御自身の享年を五十年も超え、元気に米寿を迎えた縁者たちを愛で給うたことと偲ばずにはいられませんでした。

節目を尊ぶ、人生は旅

### M氏の歌

愛し児の 顔も知らずに靖國の 命となりし 父を哀れむ  
大戦に 散りたる父の年齢より 五十年生きて 米寿を迎ふ



ているのではないのでしょうか。

お近くの社寺に詣でたり、各家庭にお祈りしている神棚にお参りされて、日々の無事を願われていることと思ひます。祈りを捧げる時は束の間、心が落ち着きます。世の中の禍事からひと時でも逃れることのできる有り難いせめてもの時間と空間でもあります。

遷化前の一休禅師が悲しむ弟子たちに向かつて、本当に困り果ててしまった時にこれを開けなさいと言つて巻物を遺しました。数年後、お寺で大問題が起きていよいよその巻物を開けることになりました。そこに書かれていたことは「大丈夫。心配するな。何とかなる」でした。いくらトントチの一休さんといえども、とても端的すぎると思いますが、それは発想の転換と気持ちを強く持つていけば必ず道は開くという、非常に勇気づけられる今に通じる言葉ではないでしょうか。心が折れそうになつても決して望みを捨てないで、日々一生懸命にご先祖に祈りと感謝を重ね、世の中の人々を敬つていけば光明も差すのではと思ひます。

亡くなったあとでも人々を勇気づけ発奮させた一休禅師。御霊になられて何十年何百年を経ても変わることもなく祖国日本を国を遺された家族を、そして子々孫々までを居ますが如くのように守り続けてくださっている護國神社の大神さま。

ご参列の皆さまとともに慰霊と感謝を共有できる日こそが大祭なのですが、このような世の中になつてしまつていふことは非常に残念でなりません。心ならずもご参列いただくことができなかった多くの皆さま。護國神社は変わることなく常に此処に在り、そして御遺族の大切なご家族であつた御霊たちが常に安まらんことを願ひながらご奉仕する日々を重ねております。

「大丈夫。心配するな。何とかなる」、気持ちを確と強く持つて今を乗り切らましよう。

終戦七十五年の大きな節目に囚らずも雨中の秋季例大祭になりましたが、常と変わることはない大切なお祭り、そして御霊がいますことを改めて深く知ることになりました。



国際平和デーにちなみ今年も九月二十一日には、全国の四十七の護国神社とプロジェクトTAISHI主催による世界平和の祈りの揮毫が全国一斉に行われました。ひとりの力、ひとりの願い、それらすべてをよって表現する「和の心」が大きな塊となつて、世界平和へと導かれる。そのような言い知れない魂を直に感じる事ができた非常に意義の深い行事となりました。

大きな筆にたっぷり墨を含ませて、聖徳太子の十七条憲法第一条にある「以和為貴」と、「安寧」の文字を松本重幸氏が「以和為貴」に書き上げました。いずれも現代社会においてもつとも必要で、そして心の指針となる言葉です。松本氏の揮毫中に流れる音は、静かな力が迫ってくるような不思議な空気感を生み出すクリスタルボウルの奏で。石井美佐子さんが操る重低音が心揺さぶり、聴く者が徐々にリラックスしていく思いがしました。また大分在住の秋田真介氏が菊の花をモチーフにした大麻飾りを緻密に編み出し奉納しました。神様に捧げ物を指先から作りだしていく美しい様子は静寂そのものでした。

お三方の拝殿でそれぞれ奉納に参列の皆さまは固唾をのむようにして見守っていました。繰り広げられる非日常の世界、それはお鎮まりの大神様との共存のようなまさしく入魂のひと時でした。流れるような美しい文字や音の調べ、指先か



今年には戦後七十五年にあたります。節目の年に世界中で新型コロナウイルスが発生。そして蔓延しています。この三十年間は特に未曾有の天災も起きましたが、他国に比べて少なからず穏やかに過すことができていた日本の戦後七十五年でした。しかしここにきて国体をも揺るがす伝染病の脅威に日本人は見過ごしていた「当たり前の大切さ」を今感じています。これまでのグローバルリズムから転じて、おそらくライフスタイルが大きく様変わりするでしょう。これまでの暮らしや生き方、仕事の方法が狭小になるかもしれません。人々の日々の明け暮れが窮屈になるかもしれません。思いもかけなかった災いに苦勞している今こそ日本人のあるべき姿、失われつつある美しい精神のその原点を探し、そしてどの国よりも国格も民度も崇高な日本人に立ち直ることが、今であることに気づくことのできた世界平和の祈りの揮毫の日でした。

## 「愛」による世界平和の奉納揮毫開催

祭典行事報告

9・21全国護国神社 世界平和の祈り

九月二十一日

ら生まれてくる有り難い造形。力強さや優しさが世界平和への強い願いとして私たちの胸を打ちました。ヒーリングを直に体験できたのではないのでしょうか。



今年の夏は神梅収穫祭をスタートに「夏詣」の行事を折々に開催しました。お気づきいただけましたでしょうか。

夏越大祓式、みたままつりなど大きな祭典行事においても、景色のなかにどこかしら、夏ならではの風物をあしらって、酷暑のなか参拝いただいた皆さまの心をお慰めしました。

それぞれの開花期の花を順に浮かべた花手水、朝顔展、風鈴、季節の果物をベースにした甘酒の授与。特に花匂のような花手水は今年初めての試



みでしたが、手水舎の清らかな流水と夏の花の美しさに神社の気高さを感じていただけただけのものではないでしょうか。また今年も夏越大祓式終了後も、常に青々とした茅の輪をみたままつり終了まで設えました。浄化、再生、リセットなど心のありのままを受け入れてくれる茅の輪くぐり。参拝の皆さまに非常にお喜びいただき、コロナ禍を吹っ飛ばせとばかりに多くの方が茅の輪をくぐられました。目には花手水の冷気あふれる季節の花々。耳に届くのは心地よい風鈴の音。猛暑のなか、全身にくまなく感じる瑞々しい茅萱の緑は一服の涼。本殿にお鎮まりの大神様の御後威、外の世界とは少し異なった神社の空気を直に体験できた一夏ではなかったでしょうか。

季節の移ろいや間合いや風景風物に敏感な日本人。昔より四季を題材にした風物とその季節を融合させることに長じている日本人。美意識の高さ、精巧な技術の高さは民度の高さでもあります。伝統工芸の数々や産地の名物の奉納を通じて、さらに日本の文化や伝統技術を高め、今でも脈々と継承している神宮をはじめとした日本各地の神社。大切な日本独自の伝統を幾代にも守ることが伝統、それを途絶えることなく続け、支えていることこ

そ真の信仰の証です。日本は神の国、そして天照大神が御祖であられる天皇陛下がいらっしゃる有り難い国です。世界においても皇帝と呼ばれる御位にあるのは日本の天皇陛下だけです。世界のキングやクイーンよりも格が高いのです。古事記や日本書紀にもあるように日本の歴史は他国に比べて格段に異なるのです。そのような麗しく気高い国の一員である私たち日本人。

時代が変わり、今は世界の至宝と言われた日本の自然や物心両面の宝が失われつつあります。日本の確かな歴史とともにある神社。神様をお祀りして比翼を広げるようにして参拝の方々をお迎えする神社。その大きな役目のひとつとして四季を通じて、季節の美しさやそれにもつらう行事の麗しさを改めて皆さんにお伝えしたひとつが今年の「夏詣」でした。

護国神社には四季を体現できるさまざまな物や場所、豊かな自然が点在しています。新型コロナウイルスと向き合いながら、これからは護国神社は日本が織り成された歴史のなかにある美しい伝説文化を再発見できる「四季の詣」を進めてまいります。



# ご創建百四十五年記念 並びに 終戦七十五年

## 山歩紀 山に思う

「星生山」 宮司 八坂秀史

山名は仏教用語の法性(ほっしょう)に由来するとか、すべての存在には実体はなく真理そのものと説く…。あらためて星生山。星が生まれる、星を生む。なんとも宇宙神秘や溢れる浪漫を感じる山名ではないか。気温十度晩秋の牧ノ戸峠を七時四十分出発。セメント道を上り杵掛山を越え、と真東に目指す星生山がすっきりと立つ。紅葉をゆくり愛でながら扇ヶ鼻分岐を経て星生尾根への急登にとりかかる。さつさとその星生カールを登り切ると目前にはいくつかのピークを持つ三俣山がどっしり座る。稜線を進み十一時三分星生山登頂。標高一七六二M。足元の岩尾根がその先で北に折れ、山肌が薄茶から白色へと変わり噴煙上げる硫黄山へ連なる。三俣の山辺には北千里浜が砂の川のように坊ガツルへ流れ落ちその奥には大船山と平治岳が黒々と壁のように立ちはだか。反対側南の赤川方向にはガスが立ちこめ、阿蘇高岳と根子岳祖母山の頂きだけが雲上に浮かぶ。ゴジラの背のような岩場ルートをわざわざ選びそろうりと進む。やがて久住別れへと切れ落ちる星生尾根しんがりの岩場、星生崎にいたる。直下久住別れから見上げればそそり立つ岩塊。はるか麓の赤川キャンプ場から望めばガレ場の上に陣取る砦のような岩峰群のその先っぽで足を垂らす。



星生山西側山麓の紅葉。奥には頂上、右奥には岩尾根が見える

つらせたのは二十年ほど前。眼下の西千里浜を元上司がお嬢さんの手をひき下山したのは三十年前の春先。高一夏、赤川での学年キャンプで「登山部入ったやろ」とガレ場の久住山直登ルートをいきなり引率したのはなんと四十四年前か！星生山：浪漫や未来を夢想させる山名のもと、逆に心は古い記憶へと翔けてゆく。足元はるか赤川谷から湧く雲がスクリーンとなり昔日の情景が次々浮かぶ。源氏物語ではないが、来し方の山は霞みはるかにて。遠く霞んでゆく山々のように大方の記憶はいつしか霧散する、それでも残るものは残る。絶壁上での子供たちの歓声、雪解け道にハルリンドウの清楚な青、急登の岩場を刺す真白い日差しに喘ぐ男子女子…。山々はこの先も忘れ得ぬものをきつと残してくれる。

十月十八日は護國神社のご創建記念日です。明治八年より百四十五年の今年を終戦から七十五年を迎えた夏でもありました。五年後にはご創建百五十年、そして終戦から八十年という大きな節目の年を迎えることとなります。日本にとってこのような大きな節目に、今年が新型コロナウイルスという非常に禍々しい感染症が世界中を駆け回るようにして人々を苦しめています。春には著名人もその病に倒れ命を奪われました。地位や名誉などもまったく関係なく、それは手当たり次第にといった様相です。ほとんどの国が長い間、平和を享受していた代償として大きな試練を与えられてしまっている今年です。自己責任、自衛と自助の大切さを改めて感じる令和二年になりました。軍靴が国中に響いた時代や、高度経済成長のもとで平和な世の中であった近代日本の歴史とともに歩み、そして大分県のめざましい発展を松葉山の頂から今でも変わることなく見守り続けている護國神社。この地はまさしく常若(とこわか)の松、弥栄の名前を冠している松葉山です。人々の明け暮れの喜びや悲しみの一瞬一瞬を支え、人生の大切な節目を優しく祝福してくださっている護國神社にお鎮まりの四万四千四百五十八柱の御霊たち。今も変わることなく此処におられます。その心の通いは七十五年前までは家族の一員であった人、将来を約束した愛する人、社会に多大なる影響を与えるであつたはずの将来有望な若者であつたりだからこそ、今なお変わることなくその熱い心が私たちの胸に届きます。私たちのそばでまぎれもなく、ともに生きていた人々が神様となりこの社の奥深くに鎮まっています。それが護國神社の大きな意味と特徴です。戦後七十五年を記念して護國神社ご創建当日に当たる十月十八日午後八時より、生島煙火様のご尽力によって七十五発の花火を打ち上げました。



神職さん  
つれづれ記  
禰宜 尚  
後藤

**還暦を迎えて**  
十十二支が一巡し誕生年の干支に還ることを選暦、本卦還りという。令和二年、十二支の一番目に当たる庚子年、私は還暦を迎えた。無事に迎えられたことを喜んで良いものか、それとも、もう還暦になったという哀しみも大いにあって憂鬱で複雑な心境である。昔と比べ今の六十歳は若い。先輩方からすると若いと叱られそう。では若い世代からみればどう思われているのだろうか。自分が若いころ還暦の方に対するイメージは赤いチャンチャンコを着て赤いベレー帽をかぶり、子や孫に囲まれて微笑む好々爺のイメージである。還暦の記念に屋久島に行く計画を立てていたが、この時世なので残念ながら思いとどまっている。楽しみにしていた還暦同窓会も延期となった。自分の記念の年に世の中がこのような状態になったことを思うと、第二の人生の出発点。今の人生を振り返りつつ、悔いのない人生をさらに歩んでいきたいと思う。趣味を持ち、いろいろなことに挑戦してみたい。一日一日を有意義に送りたいと思う。還暦はお年寄り入り口のスタート点ではなく、新たな人生の折り返し地点と想ってさらに精進を重ね、そしてこれまで歩んできた人生のさまざまな場面を教訓として、自分らしい生き方を見つけていきたいと念じている。



ご近隣の皆さまには時ならぬ秋の花火に驚かれたのではなかったでしょうか。もしかしたら全国各地で催されているサプライズ花火ではと思われたかもしれません。今年がコロナの影響によってもたらされた思いもかけない、人同士の齟齬(そご)が見られています。命を一生懸命に救おうとしている医療従事者に対して、心無い差別をする人がいるというつらい現実には私たちは真っ向から向き合っています。一生懸命の人たちにどうして感謝せずに蔑み差別するのでしょうか。そのような医療従事者に対してブルーインパルスの飛行やサプライズ花火などを行って感謝の気持ちを表している昨今です。空を見上げて感動するだけでなく、心も体も寄り添っている人たちにこそ感動をもらいたいものです。十月十八日の花火はもちろん慰霊と平和の願いが大きな目的でしたが、いわれのない差別のなかでも人の命のために仕事をしている多くの医療従事の方々へのねぎらいと、そして地域住民の皆さまの健康を祈念した秋の夜の七十五輪の花咲かせでもありました。